

「新居浜弁」^{最高!?}再考

「三匹の子ぶた」を、新居浜弁で語ってみると…

ごつい前、どっかしゃんに三匹の子ぶたがおったんよ。一番大きな子ぶたはしよーたれで、昼寝ばっかりしよったんじゃ。二番目の子ぶたはよーけ食べる子で、1んちに2回もお昼を食べよったわー。べべこの子ぶたはいそしげに、いっつも畑を耕しよったわね。いつかしゃん、おかあが子ぶたらに言うたんやって。「あんたらもいっちょ前になっただけ、めんめで自分の家を建てんかいよ。」子ぶたらは、ごついたまげた。ほじゃけど、おかあが言う事じゃけん、しゃーないと、どこぞに建てるか、かいがいに言いおた。一番目の子ぶたは「わっしゃ、山のねきにしよーわい。」2番目の子ぶたは「りんごの木があるけん、山の真ん中へんにしよー。」3番目の子ぶたは「ほーじゃ、ぼくは、山のとん先じゃ。」

一番目の子ぶたは、ワラをぎょうさん集めてきたわい。「家作るんやったら、ワラが軽うてええけん。」あっちゅー間で一番に出来て、おべんと広げて寝てしもた。二番目の子ぶたは、木を拾ってきて釘打って、「ほら、出来た!木の家じゃけん、なんてて立派なわ。」そうとう働いたけん、おべんとすぐに食べてしもた。三番目の子ぶたが必死こでレンガを運んで作りよったら、後の二匹がおちよりに来たけどのー、ほんでも、気にせんとやりよったら、その日の晩には出来たわね。

ほやけど次の日、オオカミがワラの家に来てしもてのー、1番目の子ぶたが、「大

とや!」とワラの家に入ったんじゃけど、オオカミが「フーッ」て息吹いたら、家はどこぞに飛んで行ってしもた。なんてて逃げな食べられるけん、急いで二番目の子ぶたの家をたんねた。二匹で木の家に入とったら、オオカミが家に体当たりしてきて「ドッカーン!」やっぱし、木の家も壊れてしもた。二匹がやっこさで三番目の子ぶたんちに入ったら、オオカミは、またレンガの家でフーッて息吹いたんじゃけど、なんちゃじゃない。オオカミは、はがいたらしげーに勢いように体当たりもしてきたけど、自分が痛いだけやった。ほんでもオオカミはしわかったけん。「今度は煙突から入ったるわい。」それを見よった三番目の子ぶたは、かしこいわね、お鍋にツツンのお湯はって煙突の下に置いたんじゃけん。そんな知らんオオカミは、勢いように鍋にドボン!「ギャー!!そうとう熱いやん!」言うて、即効いんだわね。なんじゃかんじゃあつたけど、ほれからは三匹仲良うに暮らっしよるわね。



読者のお便りで多いのが「最近、新居浜に引越してきました」「新居浜に嫁いできました」という、市民初心者マークのみなさん。以外と言葉で苦労しているようです。全然通じない訳じゃないけど「えっ?」と思うような言葉も多いとか…。そんなみなさんのリクエストにお答えして、Hoo-JA!が送る「新居浜弁講座」。地区によって、またビミョーにも違って来ますが、新居浜歴の浅い方、参考にしてみてください。西条でも、ある程度は応用可能じゃけん♪

【解説】 ※実際には使われなくなった言葉もありますし、掲載しきれない言葉も、まだまだたくさんあります。好評なら第2弾もアリ!

どっかしゃん	本文ではニュアンス的に「あるところに〜」という意味になるが、新居浜的には「場所は分らないが〜」という場合によく使われる。「どっか知らん」とも言う。語源は「どこか知らないが…」(だと思ふ) ※例「どっかしゃんにおいしいお店ある言うて聞いたぞ」
しよーたれ	だらしない。不潔な〜。「小便垂れ」から来ているとも。四国は各地方で、また、佐渡でも使われているとか。「しよたれ」と発音するところもあるが、新居浜では「しよー」と伸ばす方が自然。 ※例「スポンからジャツ出して…しよーたれげーな」(げーな = みたいたね)
べべこ	本文では3兄弟の末っ子ということで「幼い子」と言う意味に当てはめられているが、本来は幼子を「優しく区別する」場合に使う言葉。幼い子供を交えて遊ぶ時など、その子だけ「優遇措置」を適用する場合によく使われる。 ※例「Aちゃんはべべこじゃけん、揃まっても、オニにはせんけん」
いそしげに	いそいそよく気付き、よく動く(働く)こと。「〜げに」は〜のように、〜しているように、の意。いそいそは「忙しい」から。 ※例「暇な暇な言よったけん来たのに、なにいそしげにしよんぞー。」 「〜げに」を付ける場合、最近では語源に近い「いそしげに」と発音する場合も。
いつかしゃん	いつか知らないが〜、いつか忘れたが〜の意。「いつかしらん」と発音する場合も。語尾に「〜けど」を付ける場合も多々あり。 ※例「いつかしゃんけどのー、前に言よったやー」(=いつか忘れたけどさ、以前に言よったよ)
ほーじゃ	「あ!!」と思いついた時や、「そうだ」と、同意を表す時に使う。第三者に同意する場合、「ほーじゃ、ほーじゃ」とくり返す場合あり。フリーペーパーHoo-JA!もこの方言から命名。「ほーじゃのー」「ほーじゃねえー」と語尾の「のー」「ねー」はこの辺りでは、色々な言葉に付く。
あっちゅー間	あつという間に〜、短い時間で〜、短い期間で〜 となる。「あついう」が「あつちゅー」に略されたと考えられる。その昔、パイレーツが胸を強調し「だつちゅー」と言うという話が、全く関係ない。
なんてて	なんとと言っても〜。本文「なんてて」に「なんてて」を当てはめると、意味が通じるので、省略形と考えられる。「なんてて逃げな食べられるけん」=「なんとと言っても、逃げなきゃ、食べられちゃうので」
必死こで	必死で〜、一生懸命に〜。「必死こいて」の省略形(のハズ?)。ただ、「こいて」=「こく、こく」は「船をこぐ」の「漕ぐ」、もしくは「尻をこく」の「こく」?強調する役割? ※例「必死こで勉強したのに、テストあかんかったわー。」
なんちゃじゃない	へっちゃら、大丈夫、の意。「大丈夫だから」=「なんちゃじゃないけん」(語尾に〜けん)と付ける場合大いにあり。 ※例「病院の検査、どうだった?」「なんちゃじゃなかったわねえ」
はがいたらしげーに	歯痒い(はがゆい)=思うようにならなくて、いらだたい、じれたい。「歯痒い」(はがゆい)が「はがしい」、さらに「はがいたらしい」と変形し、語尾に付く「〜げに」が「げーに」となる。バカにされた時など「お前、はがいたらしーのー」と、使う場合もある。
しわかった	しわい=執念深い、しつこい。しわかった=執念深かった。「しわい奴」、「お前、しわいのー」と使われる。「しわーとやって来る」の場合は「こっそりやって来る」となり、別の意味となる。
じゃけん	〜です、〜ですから、の意。「ほーじゃ」と合わせて「ほーじゃけん」「ほじゃけん」(そうだから)「ほじゃけんどのー」(そうですけど、=否定の場合)と使う場合も。
いんだ	いんだ=帰った。本文の「即効いんだわね」で、「どっとどと帰りました」。他県から来た方がよく戸惑うのは、「いんでこーわい」。これで、「帰ります」(片道)となる。意味を取り違えやすい、「帰ってから、また来ます」(往復)は「いんで、またこーわい」となるのでご注意。

【ごつい前】 すいぶん昔 【よーけ】 たくさん 【いっちょ前】 一人前に 【めんめ】 めいめいで【しゃーない】 しかたがない 【どこぞ】 どこかに 【かいがいに】 交替で 【ねき】 近く、〜の下【しよーわい】 するからね 【ぎょうさん】 たくさん 【〜しもた】 〜してしまつた 【おちよりに】 からかいに 【大ごとや】 大変だ 【どこぞ】 どこかへ 【たんねた】 尋ねた 【やっこさ】 やつとの思いで 【ほんでも】 それでも 【ツツンの】 熱々(アツアツ)の 【なんじゃかんじゃ】 いろいろと 【ほれから】 それから

「しよーたれ」「ほーじゃ」「はがいたらしげーに」などの長音表記は、本来「しよーたれ」「ほーじゃ」「はがいたらしげえに」となりますが、発音上は「一」の方が近いかな?という編集部の勝手な判断により、長音表記にしてみました。